ひろば

ミニコミ紙

平成22年11月20日　号外
飯田恭次　発行者
用賀出張所　任務局

安全な街をめざして

玉川消防署用賀出張所

町会の皆様方には、平素から地域の防火防災にご協力頂き有難うございます。

昔から、怖いものは、「地震・雷・火事・おやじ」といわれてきました。

そこで、地震対策として家具の転倒・落下防止を行い、自ら身の安全を守って下さい。

火災の出火原因の第一位は「放火」です。放火を防ぐには、家の回りをきれいにし、ゴミは決められた日に出しましょう。

天ぷらを揚げている時は火から、絶対に目を離さないで下さい。

消防署では、火災を早期に発見し、尊い生命を守るため、住宅用火災警報器の設置推進を行っています。

「安全な街、玉川」を目指して、消防署では地域に密着した行政を目指しています。

タクシーで避難

玉川台一丁目　池田良夫

一級河川である多摩川の堤内に民家のある玉川一丁目の住民にとって、増水時の避難は大きな問題です。

特に、身体の不自由な方や高齢者は、避難所への移動は本人にも家族にも又近隣の方々にも多大な負担をかけることになります。

現在、国交省では、暫定堤防の工事を進めておりますが、当面の対策として、世田谷区とタクシー会社が事前契約をして、いざという時に配車送迎をしてもらえる事になりました。

過日の避難所訓練で、実際にタクシーによる移送の体験を実施いたしました。

地域の防災拠点

京西小学校副校長　溝口　純

京西小学校は来年二月には、新しい校舎になります。

当然、新しい校舎での防災のあり方を早急に整えていかなくてはなりません。

町会の防災担当の方々と相談しながら、地域の安心・安全のために計画をたてていきます。体育館、ランチルーム、ワークスペース等どの場所にどの町の方が避難するか、詳しく決めていきます。いざという時に、混乱がないようにします。

この計画を基に、実際の避難所運営訓練も実施します。

新しい校舎は教育の場であると同時に、地域の命を守る拠り所となるのです。

暮しの工夫

瀬田交差点

玉川台一丁目　山森　敦

瀬田交差点は全国的に有名である。交通量も一時間あたり八千台前後　朝夕のピーク時には九千台を超える。十二時間の交通量は九万五千台を超える。都内百交差点のうち、瀬田交差点は四番目に交通量が多い。

（平成十七年十二月調査）

毎年、春と秋の交通安全運動には瀬田交番前にテントを設置し交通安全の啓蒙活動を行っていますが、町会、商店会、PTA等沢山の地域の方々の協力で成り立っています。

町の様々な行事にも積極的に参加して頂き、笑顔と挨拶が行き交う良い町だと実感しています。

（瀬田町会交通部部長）

水害対策"雨水トンネル"

上用賀四丁目　金子勝治

一昔前、田園風景が残っていた用賀の町も、年毎に都市化が進み、大雨が降ると道路に雨水が溢れ、近辺の家は都市型水害に見舞われる様になりました。

そこで、地域住民の強い要望もあって東京都下水道局は、西用賀通り地下に、シールド工法で直径約五米の雨水一時貯留トンネルを掘削し、工期三年、平成六年に完成しました。

今、集中豪雨の時、雨水は、このトンネルへ一旦流れ込み、その溜った水は雨上りに玉川台一丁目、玉川通り脇でポンプアップされ谷沢川に放流されています。

上用賀四会副会長

木洩れ日

飯田恭次

秋色深まり、遠く冬の足音が聞える頃となりました。

夕暮れ時、愛犬との町並散歩、朝霧の中、健康夫婦の元気なジョギング姿に町の安らぎを感じます。

夕方、うす暗くなった時は黄昏時（たそがれどき）『誰そ彼』時が語源とか。そして、明け方、やはり、人の顔が見分けにくい頃が『彼は誰』時（かわたれどき）、その頃、東の空に見える明けの明星（金星）は又の名を『かわたれ星』とも呼ぶそうです。

それにしても、今年も様々なニュースが続きました。

人と人の絆を大切にとの掛け声の中、家族、隣人、職場での人間関係は益々希薄化してきました。

先月実施された国勢調査で、その生活態様の一部がより明らかになるのではないでしょうか。

十五年後、日本の社会は三人に一人が六十五歳以上になると予測されています。

その時の姿は、この国が歩んで来た歴史の中にも、又、他の国にも参考となる先例はありません。

戦前の『めざす増やせよの大家族主義や戦後、高度経済成長時の企業職種型家族主義と全く視点を変えて、地域社会の日常生活を共にする人達による』町『家族主義が必要になった様です。

ひろば　ご希望の方は出張所においてありますので　どうぞ

回覧

郷土紹介

別荘地について

玉川学園　池田良夫

多摩川左岸の国分寺崖線は、富士山を望む景勝の地として古くから文人たちに親しまれて来た。

明治大正から昭和にかけて、財界人や政治家たちの邸宅や別荘地となった。

日本の実業の祖でもある渋澤栄一が晩年愛した書院は現在のセントメリーズの学校となっている。

逓信大臣田健治郎邸は、東急電鉄の五島慶太邸になり、五島美術館となった。

ロッキード事件の小佐野邸は第三京浜道の隣に広大な敷地を有している。

大平首相邸、ノリタケの森村邸は行善寺をはさみ、マンションに変ってしまった。

水戸徳川家十三代の当主徳川団順邸は今は瀬田温泉とスポーツコネクションに変ってしまった。

清水組（清水建設）社長清水揚之助邸は日産玉川病院へ、信越化学社長小坂順造邸は瀬田四丁目広場として区立の公園となった。

小坂邸の両隣には文化勲章の中村歌右衛門邸と堅山南風画伯のアトリエがあった。

群馬堂文庫が三菱二代目岩崎弥之助の納骨堂であるよりも和漢書の蔵書世界一で有名である。

昭和の財閥、満洲の三介久原房之助、鮎川義介邸もマンションに、高橋是清邸は玉川幼稚園となっている。

三子玉川郷土史会会長

語り継ぐ

大山道歩き

用賀四丁目　宮田　博

地元の「大山道場」については既にこの欄でご紹介がありました。そのメンバーの一員で実際に大山街道を歩いています。街道筋の華やかなりし頃、昔の旅人が何を見、何を思いながら歩を進めていたのか、そんなことに思いを馳せながら、しばし旅人の気分を味わっています。

道中の案内は、大山道場の講師をお願いした中平熊二郎さん。「ホントに歩く大山街道」というご本を出され、多くの街道筋を研究されています。

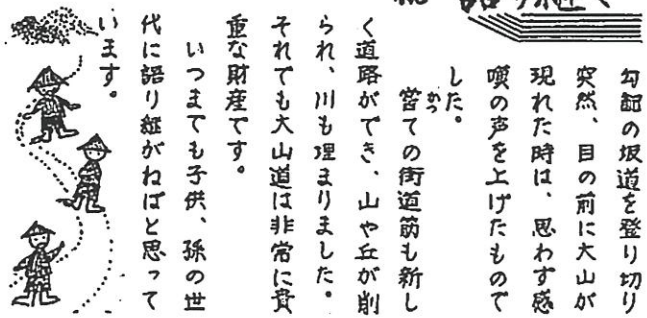
第一回は昨年五月に先ず近場から歩き始め、その後赤坂御門を正式に出立して八回目にしてようやく愛甲石田に着きました。

残るは石倉橋から追分を抜けて、大山の山頂を目指すだけです。途中、多くの社寺、庚申塔、或いは古ぼけた道標、石塔、道祖神の石像群等が残り、先生の説明と共に疲れも忘れます。

お寺の軒を借りての昼食も楽しいものでしたし、急勾配の坂道を登り切り突然、目の前に大山が現れた時は、思わず感嘆の声を上げたものでした。

皆（かい）ての街道筋も新しく道路ができ、山や丘が削られ、川も埋まりました。それでも大山道は非常に貴重な財産です。

いつまでも子供、孫の世代に語り継がねばと思っています。



わが故郷

女学生時代への追憶

玉川三丁目　内田弘子

〝故郷は遠きにありて思うもの〟と云う有名なうたがありますが、私の生まれ育ったのは群馬県の桐生と云う絹織物で有名な町です。

町は中心に天満宮があり、そこからまっすぐに幅広の道がのび両側にはさまざまな商店が並び、その頃では珍しい高島屋デパートなどがあったのを覚えています。

町から少し外れると機（はた）やさんが並び機織りの音が聞こえて来る、そんな町でありました。

因みに、私の通っていた桐生高女は、戦争中の事でもあり校舎は高等工業学校のお古をそのまゝ使用した工場の様な鋸屋根でありました。

更に思い出深いのは、当時は革靴が手に入りにくくその為、校長先生の発案で生徒全体が駒下駄を履いて登校したことでありました。セーラー服に駒下駄、当時は何とも思わなかった事ながら、今になって思い出しますと何とも奇妙な姿でありました。通学時間帯は駒下駄の音が賑やかでそれが当然の如く胸を張って歩いたものでありました。因みに、下駄の鼻緒は皆自分で手作りし下駄にすげたものでした。

終戦を境に町は大変貌をとげ、只今ではいっそう賑やかな大都市になりましたが、私は時折あの駒下駄の音をなつかしく思い出します。

スポット

古着・古布の回収

12月11日(土)9時～12時

京セラ東京事業所駐車場

玉川台2-14

歳末助け合い募金運動

地域支え合い

11月18日～12月17日

さぎ草講習会

23年1月または2月

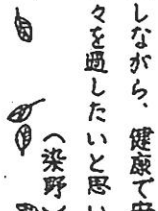
国勢調査について

国勢調査ご苦労様でした。

この結果は、たとえば、福祉、生活環境、防災対策等、国や地方公共団体における様々な施策の計画の策定などに利用されます。

戸締まり用心

火の用心



あとがき

気温が体温を上回る記録的な猛暑が続いた今年の夏は、とても長く感じられました。一日中冷房の中で、体調を崩した方も多かった。又、一方では冷房の無い中で熱中症で亡くなられた方も、大勢いました。

高齢者の生存不明、子供の虐待等、暗いニュースの多い夏でもありました。

私の好きな季節秋には、スポーツ、レジャーにと外に出て体を動かし汗を流し暑さで弱った体の調子を整えました。これからは歳末に向かいインフルエンザにも注意しながら、健康で安全な日々を過したいと思います。

（梁野）

筆耕・カット　折原